

ホホバ 頒布会便り



発行
毎月一回
ホホバ頒布会

謹賀新年

新年明けまして

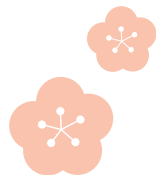
おめでとうございます。

今年も、皆様のお健やかな毎日のため、
頒布会スタッフ一同、より良い品を真心
をこめてお届けしてまいります。

今年も変わらぬご愛顧を、どうぞ宜し
くお願い申し上げます。

平成三十一年 元旦

ホホバ頒布会スタッフ一同



お正月にまつわる 日本の年中行事

私たち日本人の暮らしの中
には、一年を通して様々な年
中行事があり、日常と祝祭を
しっかりと分け「ハレ」と「ケ」
のメリハリをつけて年中行事
を行います。

「ケ」の日は、普段通り働い
て、夜になれば眠る、日常の
生活ですが、「ハレ」の日には
晴れ着を着て特別なご馳走を
食べ、家の内外にも装飾をし
て「非日常」を演出します。

その中でも、やはり特別な
「ハレ」がお正月です。
年末年始には、沢山の行事
や習わしがありますが、代表
的なものとしては、

- ・大掃除・邪気を払って歳神様をお迎える
- ・年越しそば・細く長くの願いを込める
- ・角松・歳神様に降臨していただく依り所
- ・注連飾り・家庭に厄が入り込まないように
- ・おせち・歳神様へのおもてなし
- ・お雑煮・神様への捧げものを分けていただく
- ・初詣や年始参り、お年玉や書き初め等、忙しい年末には億劫に感じてしまう事もあります。豊かに暮らすための区切りと考え、できる範囲で行う様にしたいものです。



福を招く！

お正月のしきたり

新年には、新しい年の無病息災を願い

沢山の福を招く習わしがあります。

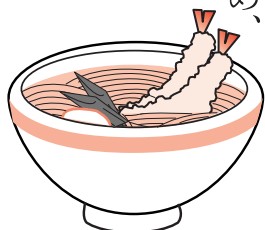
一年の計は元旦にあり、ともいいますから、

お正月のしきたりは出来る範囲で行う様にしましょう。

年越しそば

お蕎麦は切れやすいため「厄を断ち切る」また「細く長く」の願いが込められてるとされています。

金や銀の細工職人が、お正月休みに入る時、散らばった小さな金銀の破片を、そば粉を練って丸めたものを使って集め、その蕎麦を食べたのが由来と言われています。

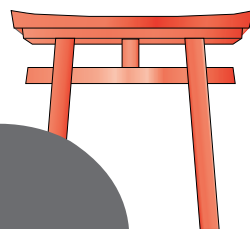


除夜の鐘と初詣

梵鐘ぼんしょうは、仏教誕生の地インドには無く、中国が発祥。

元々は、僧侶が修行の時を知らせるために鳴らしていたもので、いつから大晦日に108回鳴らす習慣になったかは、定かではありません。

108が煩惱の数という事は広く知られていますが、鐘をひとつ撞いたら合掌し、心の中で



自分を戒める言葉を念じましょう。それを繰り返すうち、煩惱が遠ざかり、きれいな心で新年を迎えられます。

初詣は、神社・お寺どちらでもよいのですが、もともとは氏神や産土神に新年の挨拶に行くというもの。住んでいる場所の近くの神社や菩提寺など、自分に縁の深い寺社に行くといいでしょう。

お願い事だけでなく、一年の感謝を念じる事もお忘れなく。

良い初夢を見る

初夢には一富士、二鷹、三なすび、が縁起が良い、という事は広く知られていますが、こうした縁起の良い初夢を見るには、枕の下に、宝船に乗った七福神に、回文を書き加えた絵を入れておくと良いといわれています。



※回文とは、上から読んでも下から読んでも同じになる文の事。

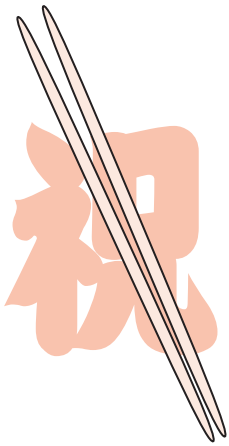
例・竹やぶ焼けた (タケヤブヤケタ)

お雑煮

お雑煮はもともと、神様への捧げものである鏡餅を分け与えていただく、という意味がありました。

餅以外は、食材・味付けともに土地により様々ですが、お雑煮をいただく時は、祝い箸と呼ばれる両端が細く、真ん中が膨らんだ箸を使うと良いでしょう。

片方を神様が、もう片方を人間が使う、という意味があります。

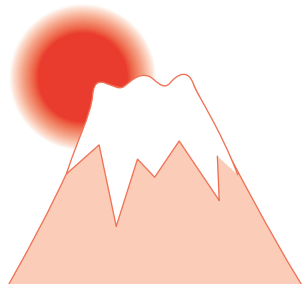


初日の出

神道において太陽は、天照大神の象徴、仏教においても、大日如来の象徴とされています。

年のはじめに昇る太陽の光を浴びる事により、心身が浄化され、大きなパワーが得られる初日の出参りは、天皇の四方拝という元旦の儀式が始まり。そこから庶民の間で広まったといわれています。

芝高輪の愛宕山と神田湯島が二大名所といわれていましたが、明治以降は全国に広まっていきました。



※しきたりにはそれぞれ諸説あります